

A表現ア、イ（ア）（イ）、ウ（ア）

音楽Ⅰレポート		《この道》を歌おう		教科書 『高校生の音楽Ⅰ』		P.18 日本語で歌おう P.19 《この道》 P.142 日本における西洋音楽の展開 P.157 用語と記号	
提出日	月日	氏名		得点		評価	

① 《この道》(教P.19)の詩を朗読して、次の問に答えよう。

1) 《この道》の詩を完成させよう。[主]

(各1点＝8点)

この（ア）はいつか見た（ア）、
ああ、そうだよ。
（イ）の花が咲いている。

あの（ウ）はいつか見た（ウ）、
ああ、そうだよ。
ほら、白い（エ）だよ。

この（オ）はいつか見た（オ）、
ああ、そうだよ。
お母さまと（カ）で行ったよ。

あの（キ）もいつか見た（キ）、
ああ、そうだよ。
（ク）の枝も垂れてる。

ア	
イ	
ウ	
エ	
オ	
カ	
キ	
ク	

2) 詩についての説明として正しいものを次のなかから2つ選ぼう。[知]

- ア 「ああ、そうだよ」の部分を除くとほとんど七五調で、詩のリズムに規則性がある。
- イ 散文調で、詩のリズムに規則性はない。
- ウ 明るい未来への希望が描かれている。
- エ 思い出をもとにした情景が描かれている。

(各1点＝2点)

--	--

② 《この道》の楽譜について、次の問に答えよう。

1) 「用語と記号」(教P.157)を参考に、次の用語・記号の名称と意味を答えよう。[主/知]

(各2点＝32点)

用語・記号	名称	意味	用語・記号	名称	意味
<i>p</i>					
<i>mf</i>					
<i>pp</i>					

2) 曲についての説明として正しいものを次のなかから1つ選ぼう。[主・判・表]

- ア 非常に速いテンポで、情熱的である。
- イ 速いテンポで、活気にあふれている。
- ウ ゆったりとしたテンポで、静かで落ち着いている。
- エ 重々しいテンポで、悲しみに満ちている。

(2点)

--

③ 「日本語で歌おう」(教P.18)を読み、次の問に答えよう。

(各2点＝8点)

1) 次の空欄に記入して文章を完成させよう。[知]

日本語は基本的に、言葉の一音一音が同じ（ア）、同じ（イ）で発音され、音の（ウ）ではなく（エ）によってアクセントを示す。

ア	
イ	
ウ	
エ	

2) ガ行の発音についての説明として正しいものを次から2つ選ぼう。[知]

- ア ガ行には、通常の濁音と、鼻を響かせて発音する鼻濁音がある。
- イ 語頭、数字、強調したい時は鼻濁音、それ以外は濁音になる。
- ウ 《この道》の詩にある「花が咲いてる」の「が」は鼻濁音である。
- エ 「学校」の「が」は鼻濁音である。

(各1点＝2点)

--	--

④ ピアノ伴奏に合わせて《この道》を歌い、難しいと感じた部分とその理由を書こう。[主/表]

(各6点＝12点)

難しいと感じた部分	理由

ピアノ伴奏

⑤ 「ああ、そうだよ」の部分を、それぞれどのように歌いたいか、書こう。[主/思・判・表]

(各5点＝20点)

1回目	2回目	3回目	4回目

⑥ 《この道》の楽曲解説(教P.19)と「日本における西洋音楽の展開」(教P.142)を読み、次の問に答えよう。

(各2点＝12点)

1) 次の空欄に記入して文章を完成させよう。[知]

《この道》は（ア）年に作曲され、詩は（イ）が書いた。曲を付けたのは（ウ）である。彼は、日本語の抑揚に沿った（エ）を残したり、日本初の常設（オ）の設立などに尽力したりし、日本における（カ）の礎を築いた。

ア	
イ	
ウ	
エ	
オ	
カ	

2) 日本における西洋音楽についての説明として正しいものを次から2つ選ぼう。[知]

- ア 日本に本格的に西洋音楽が導入されたのは平安時代のことである。
- イ 滝廉太郎は日本初の本格的な西洋音楽の作曲家で、ドイツに留学した。
- ウ 宮城道雄は《ゴジラ》などの映画音楽を担当し、生命力あふれる作品を残した。
- エ 武満徹は独学で作曲を学び、多様な分野で作品を残し、国際的にも評価された。

(各1点＝2点)

--	--